

# 道連ニュース

2010年8月号 No.50

北海道生活協同組合連合会

〒003-0803 札幌市白石区菊水3条4丁目1-3

全労済北海道会館内

TEL 011-841-8601 FAX 011-841-8605

URL: <http://www.doren.coop>

## 道連報告

## 2020ビジョン(会計基準)検討会が開催されました

～日生協のビジョン策定に応えるための有識者のコメントを集約していきます～

7月の道連理事会で設置が議決された、日本生協連「生協の2020年ビジョン」の策定に向けた、論点に関する意見募集に応募するための会計基準検討会が8月10日、大学生協北海道事業連合の会議室で開催されました。

メンバーは山崎駿元道公認会計士協会会長、山田建一前コープさっぽろ常勤監事、大橋拓哉労金常勤監事、東登コープさっぽろ管理部長・日生協経理委員会メンバー、嶋崎聡大学連合管理部長及び前川道連専務の6名です。

メンバーである前川専務理事の責任で2011年1月開催の道連理事会に中間報告をすること、また日生協地連別討論会にも見解を表明し、道連主催の監事・経

理研修会にも報告できるように進めていきます。

第1回は「生協における資本・会計制度の展開と課題」（小栗崇資・駒澤大経済学部教授）についてのレポートの感想を交流しました。生協法改正で「生協会計のグローバル化」がすすみ、会計面では「生協の株式会社化が質的段階に」なった。組合員のための会計と投資家のための会計には当然違いが生じる。それをどう考えるかがポイントとのこと。

また今後の進め方やスケジュールについても意見交流し、確認されました。次回以降は宮部好広日生協法規会計支援室長・吉見宏前生協会計基準委員（北大教授）などをゲストとして招き、意見交換が予定されています。

## 北海道 労済生協

## 第57回北海道労働者共済生活協同組合通常総代会が終了しました

～全労済北海道本部通常総代会が今年度で廃止され、

全労済北海道本部代表者会議を設置しました～

7月30日(金)、第36回全労済北海道本部通常総代会をホテルポールスター札幌にて開催しました。今総代会には総定数130名中、書面議決を含む106名が出席し、「全労済総会の議案審議の件」、「2009年度北海道本部活動経過報告」など全3議案について、全体で承認がされました。

引き続き第57回北海道労働者共済生活協同組合通常総代会を開催し、「2009年度事業報告承認の件」、「2009年度剰余金処分(案)承認の件」、「2010年度事業計画設定の件」など全11議案について、全体で承認がされました。

全労済北海道本部通常総代会は2008年4月1日施行された改正生協法を踏まえた組織運営の改編に伴い今年度で廃止し、これに替わり全労済北海道本部代表者会議が設置され、第57回北海道労働者共済生活協同組合通常総代会に引き続き第1回全労済北海道本部代表者会議を開催し、「2009年度～2010年度北海道本部活動計画(補強)」、「2010年度計画(案)」など全3議題について全体で承認がされました。

大変厳しい事業環境の中、全労済の理念である「みんなですげあい、豊かで安心できる社会づくり」を

実現するため役職員が一丸となって、協力団体・組合員の皆様の付託にこたえ、ともに運動・事業を前進させていくことを全体で確認し、無事終了しました。



7月30日、全議案が承認された北海道労済生協の通常総代会

「こがあな いびせえこたあ、ほかの誰にも あっ ちゃいけん（こんなに恐ろしいことはほかの誰にもあ ってはならない）」米国が投下した1発の原子爆弾によ って一瞬に焦土と化した広島。65年目を迎え秋葉市 長は平和宣言の中で被爆者の心情を代弁した。8月6 日8時15分、核兵器廃絶の実現を願う国際機運の高ま りを反映してか、国連事務総長はじめ米国、英国、フ ランスなど過去最多の大使や公使が参列した式典を横 に私たちはいつものように原爆ドーム前で天高く澄み きた青空を見上げ、肌に突き刺すような暑さの中で ダイ・インに身を投じた。

今年も8月5～7日の日程で中高生3人を含む総勢 10名と共に広島を訪れた。現地での平和行動の日程は その都度委員会内で組み立てるが、今年は新たに2つ の独自企画を盛り込んだ。1つは原爆により原爆孤児 になられ、その後60歳で大学に進み、今日証言活動を されている被爆者のお話を聞く会。2つ目は字品の沖 合約4kmに位置し、日清・日露戦争時には陸軍の検疫 所が設けられ、軍都広島と大きく関わりを持ち、原爆 投下直後には約1万人の負傷者が運び込まれ、今なお 遺骨が眠っている島・似島でのフィールドワーク。

草木が一本も生えないと言われた広島は、オリンピ ック誘致を目ざすほどの美しい国際都市に生まれ変わ った。原爆遺構の保存も少なくなり、被爆者の高齢化 も進む中で、65年前のヒロシマ・ナガサキで何が起こ ったのか、現地に赴き、私たちの創造力と五感をフル 活動させ教科書からでは学べない真実をこれからも伝 えていきたいと思う。



8月5日～7日、中高生3人を含めて10名が参加しました

## 北海道医療生協

## 第7回「戦争の記憶を語り継ぐつどい」を開催しました

中国からの帰国者代表の方



8月3日、北海道医療生協の「すこやか会館」にて第7回「戦争の記憶を語り継ぐつどい」を開催しました。「助け合いの会」の会員の方々と中国からの帰国者(厚別地区在住)の方々を合わせ、60名

が参加されました。主催者である北海道医療生協地域支部協議会の代表からの挨拶のあと、帰国者代表の方の体験話がありました。

お話の中で、「中国での終戦間際に、幼い自分(当時6歳)は弟たち2人とともに中国人(養父母)に預けられた。養父母は優しく親切に育ててくれた。中国で学び、成人し、技術者として働いていた。日本に帰国することになり、日本語の勉強をはじめ、日本の会社で働ける技術者となるため、資格取得の勉強をはじめた。たいへん難しかったが、頑張った。会社に入り、言葉が

うまく通じないことから、同僚に『あんたは中国に帰った方がいいよ』と言われたことが辛かった…。しかし、妻と子供の生活を支えるために、耐えて生きてきた」。

この方は現在札幌手稲区在住で、同じ帰国者の方のお世話をしながら、日中友好のための仕事をしています。私たちは戦争の被害者であるこれらの方々への偏見をなくすこと、また日本国(私たち)は中国をはじめアジア諸国の平和維持のために貢献すべきことを学びました。



8月3日、交流会で「太極扇」を披露しました

## 「ホームヘルパー養成講座」9月開講のご案内

北海道労済生協では、9月開講のホームヘルパー養成講座(2級課程)の受講生を募集しています。この講座は厚生労働省の教育訓練給付制度の対象で、年齢を問わず、どなたでも受講できます。また資格取得後は、全労済在宅介護サービスセンターや他の事業所、施設をご紹介します。

受講期間: 2010年9月28日～11月25日

定員: 30名(定員になり次第締切)

受講料: 55,000円(テキスト代、実習費等含む)

連絡先: 全労済ホームヘルパー養成講座事務局

☎011-818-8833